

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02720

研究課題名（和文）自閉スペクトラム症児の早期支援法JASPERの効果検証と社会性改善要因の検討

研究課題名（英文）Verification of the Effect of JASPER, an Early Intervention for Toddlers with Autism Spectrum Disorder, and Investigating Factors for Improving Social Communication

研究代表者

黒田 美保（KURODA, Miho）

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：10536212

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,100,000円

研究成果の概要（和文）：自閉スペクトラム症の幼児への早期支援について、コミュニティーベースで実施できるJASPER（ジャスパー）の日本での効果について検討した。開発者Kasari博士と連携し日本での実施に向けて研修を受け、研修を受けた心理士の実施によるJASPERの効果検証を行ったところ、社会性の発達促進の効果が認められた。また、介入方法に関連して、共同注意や遊びの水準について調べるSPACEの日本での妥当性を検討した。さらに、保育士に対してJASPERを基盤とした早期支援方法についての研修を行い、保育場面での応用や効果について検討した結果、実習的な研修により保育園での実践に結びつくことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自閉スペクトラム症の幼児への早期介入について、米国で開発されたコミュニティーベースで実施できるJASPERプログラムの日本での効果を示すことは、日本全国で効果の立証された早期支援プログラムが実施されたための基盤になると考えられる。ASDの専門家である心理士の指導のもと、保育士や幼稚園教諭が実施することができるプログラムであり、専門家が少ない地域でも実施が可能である。コミュニティーの幼稚園や保育園で実施できれば、多くの自閉スペクトラム症や社会性に弱さのある幼児への早期介入が実現できる。また、特別な施設や道具を必要としないプログラムであり、経済的効率も高い。

研究成果の概要（英文）：JASPER (Joint Attention, Symbolic Play, Engagement, and Regulation) is a treatment approach for toddlers with autism spectrum disorder based on a combination of developmental and behavioral principles developed by Dr. Kasari at UCLA. JASPER can be conducted in community-based settings such as preschools by preschool teachers. We have been working with Dr. Kasari to examine the effectiveness of JASPER in Japan. JASPER have been administrated by trained psychologists in Japan, and the effectiveness in promoting social communication has been verified. In addition, the validity of the SPACE in Japan, an assessment used in JASPER were examined. Furthermore, we conducted training for preschool teachers on early interventions based on the JASPER that can be used in preschools, and the application and effectiveness of the training in preschools were examined. The results suggest that hands-on training can lead to practical application in preschools.

研究分野：特別支援教育

キーワード：自閉スペクトラム症 JASPER SPACE 幼児 早期介入 共同注意 遊び 関わり合い

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本における自閉スペクトラム症幼児への早期介入の現状と問題

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder, ASD) は、対人コミュニケーションとこだわりの2領域の問題を中核症状とする、生まれつきで生涯続く障害である。米国では ASD への集中的な早期介入の効果が報告されており (Dawson,2010)、早期発見・早期介入の重要性が広く認識されている。しかしながら、日本では、早期介入について、効果検証がきちんとされたエビデンスのある方法はほとんど行われていない。米国で開発され効果が報告されている DTT(DTT : Discrete Trial Teaching : 離散試行型指導法)、PRT (Pivotal Response Treatment : 機軸反応訓練) や ESDM (Early Start Denver Model : アーリースタートデンバーモデル) による介入がごく一部で行われているが、実施できる心理士が非常に少なく、ASD の幼児全体に対応するのは不可能な状態である。また、日本版の有効性が検討されていない場合や介入にかかる費用が高額になっている場合もある。

(2) 欧米の既存の早期支援の問題点 : ASD の特性として、汎化の困難が挙げられる。ASD の場合、あるところで学んだ内容を別の場所や場面で柔軟に応用することが難しい。この特性は幼児から成人に至るまで一貫しており、特に ASD 幼児の場合、こうした傾向が大きい。したがって、ASD 幼児が療育センターなどの場所で学んだことを、日常の保育園や幼稚園で汎化し行動に移すことは非常に難しいといえる。この汎化の問題は、今まで米国等で開発された早期領域プログラムにおいても指摘されており、その問題点を克服したプログラムとして、カルフォルニア大学の Kasari らが開発した JASPER プログラムがある。

2. 研究の目的

(研究1) カルフォルニア大学の Kasari 教授が開発した JASPER (Joint Attention, Symbolic Play, Engagement, and Regulation) プログラムは、乳幼児から小学生まで連続的に使用でき、保育園や小学校の集団の中で保育士や教師が ASD の子どもに実施したり、家庭で親が子どもへ実施したりすることにより、大きな効果をあげている。この JASPER プログラムについて Kasari 研究室と連携して、日本での効果検証を行う。

(研究2) JASPER の中で使われる、共同注意や遊びの水準を調べるアセスメントの Short Play And Communication Evaluation (以下、SPACE)の日本語版の妥当性について検討を行い、臨床的に実施可能とする。

(研究3) コミュニティーベースで行えることも大きな目的なので、JASPER に基づく子どもとの関わりあいについて、保育士に研修を行い、その効果を検討する。

3. 研究の方法

研究1、2、3を並行して進めていった。各研究の報告は以下のとおりである。

研究1 : JASPER プログラムの効果検証

JASPER とは、Joint Attention (共同注意)、Symbolic Play (象徴遊び)、Engagement (関

わり合い)、 and Regulation (感情調整)の頭文字をとったもので、自閉スペクトラム症の幼児の早期介入方法である。Naturalistic Developmental Behavioral Interventions (自然な発達の行動介入: NDBIs) といわれる方法の1つである。JASPERの具体的な実施方法は、子ども1名と心理士などのセラピスト1名のマンツーマンで行う。1回のセッションは40～50分である。実施回数は、臨床で実施する場合は特に決められていないが、研究で実施する場合は、研究目的によりデザインが異なり、20～40回程度である。週2-3回実施するケースが多い。実施する部屋は、6-8畳程度の大きさで、子どもの遊びの水準に合い、また、興味を持つ玩具が10種類程度用意される。子どもの遊びの発達は、通常のマイルストーンに沿って考えられている。ピースを容器に入れる、型はめパズルをはめるといった簡単な機能的遊びから、あるものを別のものに見立てたり人形が主体となって台詞を喋ったり動作をしたりするといった象徴遊びへと連なる遊びのどの水準に子どもがあるのかを介入前のアセスメントで把握後、介入セッションを開始する。セッションの中では、共同注意や要求行動を促進する働きかけも行う。

以前からの文献研究および国際学会での交流を通して、JASPERプログラムを開発したカルフォルニア大学 Kasari 教授と連携し、日本での JASPER プログラムの効果検証を進めた。2017年よりコロナ禍の生じるまで毎年 Kasari 研究室を訪問して正しい実施法の指導を受けると同時に、研究員を日本に招聘し指導を受け、研究についても相談を行なった。

I.方法

1. 調査協力児：大学病院や地域の療育センターに、JASPERの研究についてのチラシを配布し、紹介を受けた。研究の参加条件は、年齢が1歳以上5歳未満で、自閉スペクトラム症の特性を調べる検査 Autism Diagnostic Observation Schedule- Second Edition(自閉診断観察検査第2版：ADOS-2)において、ADOS分類の自閉症スペクトラムあるいは自閉症と判断されることである。その結果、幼児7名が参加した(男児6名、女児1名、月齢平均37.3(±7.5)ヶ月、平均発達指数平均71.4(±21.3))。

2.手続き：JASPERの研修を受けた心理士4名が実施した。介入セッションは、毎回約45分、20回で週1回の頻度で行なった。

・効果指標：Vineland-II 適応行動尺度、SPACE、および、発達水準を測るための新版K式発達検査を効果指標として選定し、介入前後で実施した。Vineland-II 適応行動尺度は、親面接によって適応行動を調べる検査で、コミュニケーション領域、日常生活領域、社会性領域、運動領域のそれぞれに評価点が出ると同時に、適応行動総合点が求められる。JASPERプログラムの中で開発されたアセスメントのSPACEも行なった。その評価基準は、共同注意(5項目)、要求行動(3項目)、遊び(5項目)の3領域について、共同注意と要求行動は見られた回数が「0回」「1、2回」「3回以上」に対し、遊びは見られた種類が「無し」「1、2種類」「3種類以上」に対し、それぞれ0、1、2点の得点を付与した。共同注意の5項目の行動は、「指さしへの反応」「興味のあるものを見る(三点注視)」「興味のあるものを指さす」「興味のあるものを見せる」「興味のあるものを渡す」である。要求行動

の3項目行動は、「欲しいものに手を伸ばす」「欲しいものを渡す」「欲しいものを指さす」である。遊びの水準は、「単純遊び」「一対一の組み合わせ遊び」「組み合わせ遊び」「前象徴遊び」「象徴遊び」である。

II. 結果と考察

本研究では、JASPERの介入によるASD幼児の変化について、共同注意や遊びのスキル、適応行動（特に社会性）、認知等の発達水準の側面から検討した。その結果、参加児は7名と少人数ではあるが、日本のASD幼児においても、JASPERによって社会性が改善されたことが確認された。それ以外に、象徴遊びの増加や認知面の発達促進が認められた。

ASDの中核症状の一つである社会性の改善は、今回 Vineland-II適応行動尺度を使って測定したが、ESDM（JASPERと同じNDBIsの1つで、子どもとの自然な関わりの中で社会性や認知面、日常生活スキルなどの幅広い側面の発達促進を行うプログラム）の効果検証においても、Vineland-II適応行動尺度を使用して社会性の改善が確認されている(Dawson et al.,2010)。本研究でも、この研究を参考に、実際の日常生活での社会性の適応行動の変化をみるために Vineland-II を使用したが、社会性領域の指数に有意な改善が見られた。また、参加幼児は、発達水準は様々であり、発達水準に関わらず効果が見られた。

JASPER が遊びの最終目標としている象徴遊びについても、有意な増加が見られた。さらに、新版K式発達検査で測られた発達指数について、認知・適応領域で有意な改善がみられた。この改善によって、全領域の発達指数も有意に改善した。象徴遊びができるようになるためには、物の機能の理解や場面を記憶して再現する力などの認知能力も要求される。また、新版K式発達検査では、検査中の言語指示の理解や指示に従う力などの言語コミュニケーションや社会性も求められるが、JASPER の遊びの水準を上げる関わりあいを通して、認知面自体と認知課題を行う上で必要な言語コミュニケーション能力や社会性も改善したと考えられる。一方、SPACE で測られる要求行動や共同注意行動の項目それぞれについては、変化が見られなかった。しかし、要求行動全体と共同注意行動全体の変化を調べるために、項目の合計点を求めたものを、介入前後で比較すると有意な増加が見られた。つまり、JASPER によって、要求行動も共同注意も有意に増加したと言える。これらの行動の獲得も JASPER の目標であり、特に共同注意行動は社会性につながるものであるという報告がある。Vineland-II適応行動尺度で見られた社会性の発達は、対人的な行動である要求行動や共同注意行動の増加に伴って生じていると考えられるかもしれない。

研究2：SPACEの妥当性

SPACE は、子どもの社会的コミュニケーションと遊びを簡便に測定する検査である。検査者と子どもが1対1となり、15分程度で、パズルや人形など日常的なおもちゃを使って子どもの自発的な共同注意スキル、要求スキル、および遊びのスキルを見ることが出来る。SPACE は、発達心理学等に関する専門家だけではなく、保育士や教師によっても実施可能である。また、把握した共同注意、要求、遊びのスキルに基づいて、その後の介入方法である JASPER での目標や日常の保育での目標が設定できるようになっている。

Kasari 研究室の SPACE の開発者と連携して日本語版を作成した。実施法についても研修を受け、その妥当性の検証を行なった。研究協力児は ASD 児 5 名、定型発達児 13 名であり、彼らに対して、SPACE、ADOS-2、新版 K 式発達検査を行った。結果、SPACE で測られる共同注意の一部、遊びの一部の妥当性を確認できた。今後は、協力児を増やしてさらに検討を行う必要がある。

研究 3：保育士等への JASPER を基盤とする早期支援についての研修の効果

ASD 幼児が療育センターなどの専門機関で学んだことを、日常の保育園や幼稚園で汎化し行動に移すことは非常に難しい。したがって、保育の場で、ASD や ASD の傾向はある社会性に弱さのある幼児への対応が、保育士によってできることが望まれている。

保育士に必要な研修の内容と方法、また、研修が保育士の ASD 児への支援への考え方や行動におよぼす効果について検討するため、2 つの自治体で講義、実習型研修や実施マニュアルの配布などを行い、質問紙で調査を行った。2 つの自治体合わせて約 50 名が質問紙調査に参加した。自治体により質問項目が異なるが、結果をまとめると、すでに JASPER の方法を使って関わっているという意見があり、研修内容が実践され始めていることがわかった。また、講義よりも実習型研修の方が効果があることが示唆された。一方、JASPER の実施よりも SPACE を実践したという意見も多かった。今まで子どもの遊びや社会性の発達を、経験に基づいて漠然と把握していた保育士が、それらを測る検査を習得し、子どもの遊びの水準や、社会性の指標である共同注意や要求を数値化して見られるようになることで、子どもの行動を見る軸ができ、社会性の行動を評価することが可能になったと考えられた。

4. 研究成果

JASPER の日本における効果、SPACE の妥当性、保育士による JASPER や SPACE 実施の可能性があることと示すことができた。しかし、コロナ禍のため、UCLA との研究交流が難しくなり、また、参加者が幼児であるため介入実施が難しく、データ収集に計画時には比べものにならないほどの時間を要した。そのため、研究期間中に整理できていないデータもあり、JASPER を実施した介入群と地域の療育センターで一般的なプログラムを実施した統制群との比較の研究については、現在解析中であるが、JASPER 介入群 15 名、統制群 15 名について、研究 1 と同様に SPACE で測られる共同注意、要求行動、遊びの水準を点数化し、介入前後の変化量を比較したところ、共同注意の三点注視と指さしについては有意な差が見られている。また、JASPER の効果を調べる生理学的指標としての視線計測は、データが少なく個別データを見ている段階ではあるが、効果が検出できると考えられるので今後も研究を続け、一定の結果を出したいと考えている。一方、JASPER の正式のマニュアルが、昨年米国で刊行され、現在、その翻訳に取り組んでいる。今回の研究により、日本における JASPER の効果が確認されたので、マニュアルの日本語版を通して保育園等での実践および普及をしていくこと、また、ASD 幼児が通う児童発達支援施設での実施について検討することも今後の課題になると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 黒田美保、浜田恵、辻井正次	4. 巻 15
2. 論文標題 研修を通しての保育士のJASPERプログラムへの期待	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要	6. 最初と最後の頁 103-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田恵、黒田美保	4. 巻 15
2. 論文標題 自閉スペクトラム症幼児に対する社会性発達支援による視線パターンの変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要	6. 最初と最後の頁 93-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保、浜田恵、稲田尚子、井濶知美、辻井正次、須藤幸恵	4. 巻 26
2. 論文標題 JASPERが日本の自閉スペクトラム症幼児におよぼす効果の予備的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学心理学紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保	4. 巻 21
2. 論文標題 自閉スペクトラム症への早期支援の最前線 JASPER(ジャスパー)プログラムの紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの健康科学	6. 最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保、浜田恵、稲田尚子、井潤知美、須藤幸恵、丹波菜月	4. 巻 25
2. 論文標題 JASPERに基づく早期介入が自閉スペクトラム症幼児の言語発達におよぼす効果：1事例の予備的検討を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京大学心理学紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保	4. 巻 11
2. 論文標題 コミュニティーでの支援を実現するJASPERプログラム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どものこころと脳の発達	6. 最初と最後の頁 28-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田恵、黒田美保	4. 巻 14
2. 論文標題 社会的コミュニケーションのアセスメント技法SPACEの妥当性に関する予備的検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保、森裕幸.	4. 巻 17
2. 論文標題 家族がアセスメントを有効に使えるために知っておいて欲しいこと（保護者の関わり方を考える：親がどう働きかけをすることがいいのか）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アスペハート	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保	4. 巻 67
2. 論文標題 乳幼児・小児期における自閉スペクトラム症のアセスメント (特集 最新の発達障害支援)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 540-546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻井正次	4. 巻 10
2. 論文標題 発達障害児者支援 (10年のあゆみとこれから)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どものこころと脳の発達	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻野竜也, 加戸陽子, 諏訪利明, 井上雅彦, 黒田美保	4. 巻 40
2. 論文標題 実行委員会企画シンポジウム自閉症スペクトラム児の支援方法最前線	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達障害研究	6. 最初と最後の頁 442-446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田	4. 巻 67
2. 論文標題 乳幼児・小児期における自閉スペクトラム症のアセスメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 540-546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保、森裕幸	4. 巻 17
2. 論文標題 自閉スペクトラム症への新アプローチ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 LD ADHD & ASD	6. 最初と最後の頁 42-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保	4. 巻 56
2. 論文標題 自閉スペクトラム症のアセスメント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理学の進歩	6. 最初と最後の頁 209 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田美保	4. 巻 31
2. 論文標題 自閉症治療・療育の最前線 自閉スペクトラム症の評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の最新のアセスメントの支援
3. 学会等名 公認心理師学会第1回大会 特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 関係性を基盤とした自閉スペクトラム症の子どもへの早期支援. ~コミュニティベースの支援という視点から~
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会 教育講演(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 別府 悦子、北川 小有里、宮本 正一、黒田 美保、神尾 陽子
2. 発表標題 社会性の発達に困難を抱える子どもの早期発見と発達支援 アセスメントと支援ツールの役割と課題
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回
4. 発表年 2019年~2020年

1. 発表者名 須藤 幸恵、黒田 美保
2. 発表標題 早期介入が ASD 幼児の言語発達におよぼす効果の 1 事例 JASPER の取り組み
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回
4. 発表年 2019年~2020年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 コミュニ ティ・ベースの早期支援 JASPERの紹介
3. 学会等名 日本子ども健康科学学会 第21回学術大会ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2019年~2020年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 自閉症スペクトラム児の支援方法最前線 : コミュニティ・ベースの早期支援
3. 学会等名 日本発達障害学会第53回研究大会 実行委員会企画シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 ASDへの早期支援における日本の課題と JASPERプログラムへの期待
3. 学会等名 日本小児精神神経学会第119回大会 ワークショップ「JASPER」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤幸恵・黒田美保
2. 発表標題 ASD児の対人関係における自発性を伸ばす遊びの1事例 ~JASPERの取り組み~
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会 ポスター発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜田恵
2. 発表標題 保育園と発達支援センターにおけるJASPERのとりくみ
3. 学会等名 日本小児精神神経学会 第119回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜田恵
2. 発表標題 自閉症スペクトラムの早期支援としてのJASPERプログラム
3. 学会等名 日本小児保健協会第65回集会シンポジウム「発達障害の早期発見から早期支援への可能性」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜田恵
2. 発表標題 子どもの共同注意と遊びのアセスメント：SPACE
3. 学会等名 日本心理臨床学会 第37回大会 シンポジウム「新しい子どもの発達アセスメントツール：子どもの発達の包括アセスメントについて」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 JASPERプログラムによる早期介入の試み
3. 学会等名 太田ステージ研究会第28回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田美保
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の診断基準とアセスメントにみるASD幼児の社会性の特徴
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 内山登紀夫, 黒田美保, 稲田尚子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 149
3. 書名 CARS-2 (小児自閉症評価尺度第2版) 日本語版マニュアル	

1. 著者名 下山晴彦・伊藤絵美・黒田美保・鈴木伸一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 877
3. 書名 公認心理師技法ガイド ~臨床の場で役立つ実践のすべて~	

1. 著者名 黒田美保	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 102-105(総ページ162)
3. 書名 自閉スペクトラム症のアセスメントと支援., 公認心理師のための 基礎から学ぶ神経心理学理論からアセスメント・介入の実践例まで., 102-105. ミネルヴァ書房.	

1. 著者名 黒田美保	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 83-87(131)
3. 書名 公認心理師のための発達障害入門	

1. 著者名 浜田恵（分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平成29年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業成果物	5. 総ページ数 29 33 (56)
3. 書名 「効果的な子ども支援のためのカテゴリー別アプローチ 集団に所属しながら支援を行う 集団生活を視野に入れつつ個別の支援を行う」巡回支援専門員対象研修テキスト	

1. 著者名 辻井正次	4. 発行年 2018年
2. 出版社 第47回三菱財団社会福祉事業・研究報告書	5. 総ページ数 28
3. 書名 保育士による発達障害及びその傾向のある幼児の早期支援モデルの確立	

1. 著者名 Chieko Kanai, Miho Kuroda, Atsuko Miyake. (Matson, J.L., Editor.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 217-247(402)
3. 書名 Social Skills in Autism Spectrum Disorders. Handbook of Social Behavior and Skills in Children	

1. 著者名 黒田美保（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 178-188(292)
3. 書名 「ASDの診断的アセスメント」発達科学ハンドブック10	

1. 著者名 黒田美保 (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 153-170(295)
3. 書名 「社会・情動の障害としてのASD」社会・情動発達とその支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	浜田 恵 (HAMADA Megumi) (00735079)	名古屋学芸大学・ヒューマンケア学部・講師 (33939)	
研究 分担者	辻井 正次 (TSUJII Masatsugu) (20257546)	中京大学・現代社会学部・教授 (33908)	
研究 分担者	稲田 尚子 (INADA Naoko) (60466216)	帝京大学・文学部・講師 (32643)	
研究 分担者	井潤 知美 (ITANI Tomomi) (70631026)	大正大学・心理社会学部・准教授 (32635)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	須藤 幸恵 (SUDOU Sachie)	ブリッジこころの発達研究所・研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ADI-R(自閉症診断面接改訂版)の研究使用のための研修	開催年 2019年～2020年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	カルフォルニア大学			